
IS インフィニットストラトス ~wonderfulworld~

高坂夕弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS インフィニットストラトス 〈wonderful world〉

【Nコード】

N3867W

【作者名】

高坂夕弥

【あらすじ】

え、え〜と木ノ葉蒼です。男性で二人目のIS操縦者になってしまいました。

これからいろいろ大変です。

まあ仕方ないです。

これからがんばります！

第1話 これってどーゆーことでしょう？（前書き）

はじめまして、セバア木です。

気分転換の為に書いてみました。

この小説と共に私の他の小説も読んでくれると嬉しいです。

この小説の感想待ってます

第1話 これってどーゆーことでしょう？

僕の名前は、木の葉蒼と言います。

今、僕はIS研究所に働いている姉の忘れものを届けるために来ました。

「蒼君ー！、ごめーん！」

「もう、桜姉、わすれないでよね。」

「わかったよ。」

僕の姉である木の葉桜、僕より4歳年上でIS学園卒業後今の研究所に働いています。

最近、ようやくISのメンテナンスを任せられるようになって、少し浮かれている気がします。

「ISさわってみる？」

いきなりの桜姉の一言。

さすがにいきなり言われると僕だって驚きます。

だけど、最近男性でISが使える人が出てきたけど、、、まあ、僕はそんなことないでしょう。

まずそんな機会ないし、

「少しだけいいのかな。」

桜姉が持つてきたのは、IS第二世代量産機「打鉄」だった。

「はやく、はやく！」

となんだか催促してくるから僕が急いでISに触れると

「うう、うああっ！」

僕の頭に何かが流れ込んできて、気がつくと僕はISを装着していました。

「なんで、なんで僕が……………」

女性しか使えないISに男性である僕が使えるなんて

少しパニックしていると、

僕の周りには、僕のことを珍しそうに見ている研究所の人達がいま
した。

珍しがるのも無理はないです。

そのあと、政府関係者などがきて、研究所でいろいろ調べられて、
僕に今の学校からIS学園に転校するように言われました。

一応桜姉からは、

「嫌だったら、行かなくてもいいよ……………というか私が少し嫌！」
と言われたけど、せっかくチャンスがあるなら使ってみたいと思っ
たので僕はIS学園に行く事を決意しました。

実際、その後が少し大変でした。

学校が終わった後、ISの超分厚い参考書で一週間死ぬ気で勉強。
桜姉にも教えてもらえたので理解は早かった気がする。

そして、僕は今、新しい教室の扉の前に立っています。

1-4、ここが新しい僕のクラスです。

ちなみに桜姉は、このクラスの臨時副担任になっています。

まあ、何故なっただかは知らないけど……………、

さあ、扉を開けて自己紹介です！

「はじめまして、転校してきました木ノ葉蒼です。
趣味は、料理です。」

皆さん、よろしく願います。」

よしっ！上手く出来たかなと思っていると

「「「きゃああああああっ！！！」「「「

「織斑君に続いての男の子！」

「そしてうちのクラス！」

「そして、男の娘！」

ああ、お持ち帰りしたいいいいっ！」

何っこ？

僕の新しい学園生活がこうして始まるうとしています。

「男って大変だなあ」

速く織斑君と仲良くなろう。と強く思いました。

第二話 転入生は男の娘！？（前書き）

第二話 転入生は男の娘！？

一年四組に衝撃が走った。女子しかいないIS学園に男の転入生がやってきたときのよう。

今、現在で男でISが使えるのは二人。

一人は、織斑千冬の弟、織斑一夏。

そして、もう一人は、・・・・・・・・

はい、木ノ葉蒼です。きょう、ここに転校してきたんですけど、いきなり大変です

もう、質問攻め、質問攻め。人と話すのは嫌いじゃないですけど、ここまでになると、僕も嫌になります

しかも、教室の周りにたくさんの子で賑わっています。

これでも織斑君よりましらしいです。

ほかにつらいことは、・・・・・・・・・・・・・・・・・・勉強です。

ISのこととか全然知らないし、最初から意味不明。

後で、桜姉に教えてもらいましょう。

多分わからないけど。

ようやく、授業から解放されて、教室で質問責めを受けながら教室
でぼーっとしていると、教室に緑色の髪である部分がふくよかな女
の先生が入ってきました。

「木ノ葉蒼君……ですか？」

「…あ、はい。」

「よかった、家に帰っていないくて。」

「で何ですか？」

「あ、はい。そうでした。木ノ葉君の部屋が決まりました。都合に
より相部屋となりますけど、大丈夫ですか？」

「……………多分。」

「では、部屋の番号は、1064号室です。あとは、……………
……………」

と確か、……山田先生？に他の注意事項を聞きました。
僕の荷物は、まだ家にあるということなので、桜姉と一緒に外出許
可をもらって取りに行くことになりました。

帰ってきたのは、8時。

もらった部屋の鍵で部屋を開けると、

「…………誰…………？」

バスタオル一枚の青髪的女子が目の前にいました。

こうなると運命は、……………？

「…………イ、／／／ヤ…………。」
ボカッ！！

ですよー！。

僕は、思い切り殴られて意識を失ってしまいました。

第二話 転入生は男の娘！？（後書き）

感想待ってます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3867w/>

I S インフィニットストラトス ~wonderfulworld~

2011年11月13日10時38分発行